



絵は、何かしら自分の中の 気持ちが反映したもの

描いているんですよ。

絵は自由なもの

虹や夕焼け、故郷の風景に感じたり、お婆さんの顔にその人の人生が感じられたり、ふと見つけた何気ない形や色にときめきを覚えたりと、社会生活の中で喜怒哀楽の感情が自分の絵を描く基になっているんだと思うし、描くきっかけでもあります。何か心を揺るがし騒いでくるもの、そういうものが絵に表れるんじゃないかな。写実的になるか抽象的な絵になるかもその時々によって違います。

また、絵は見る人によって受ける印象が全く違います。面白いという人もいればそうじゃないという人もいます。作者の意図が伝わらないことだってあります。読み取る人によって様々。でも、それでいいんじゃないかと思っています。描く側も見る側も自由であっていいと思います。

多古町の美しさを 描いてみたい

今は、子どもたちに絵を教えるということはしていないけど、毎週集まっ



さとう ひろし
佐藤 寛さん〔80歳・染井〕
元小学校教諭。自宅隣にギャラリーを兼ねたアトリエを建て、退職後は作品作りに専心。多古町美術会会員。一昨年までは千葉県平和を願う美術展の実行委員長を3年間務めた。

ます。昔話などを題材に絵と一緒に、人間の喜怒哀楽を子どもたちに感じてもらうことに携わっていますが、これも楽しいです。

今後は、もっともっといういろいろな作品を描いてみたいと考えています。それこそ、3月から5月の初めにかけては、多古町は素晴らしい季節。水を張った田んぼの水面がキラキラ輝いて、場合によっては鯉のぼりの泳ぐ姿がそこに映る。緑もきれいですしね。緑のきれいさをどうすれば描けるかと考えながら、今描いてみたいなど思っているのはそんな絵です。なかなか難しいんですけどね。

愛おしいものを 残したい

今、一番関心を持って取り組んでいるのは「千葉県平和を願う美術家の会」。今から30年ほど前に発足したこの会は、毎年展覧会などを開催しています。千葉県在住の人なら誰でも参加できるし、作品の審査はないから上手下手を問わず誰でも出品ができます。平和を願うという名前の会ですが、直接的に平和に結びつくメッセージの作品だけでなく、かわいい動物やきれいな花に寄せる思い、家族を愛おしむ気持ちを描いた作品など、平和につながる幅広いメッセージの作品が一堂に会し、今年も10月20日から千葉県立美術館で開催します。

今私は、沖縄のガジュマルの絵に取り組んでいます。ガジュマルの樹には生霊が宿るといわれ、その魅力的な風ほうに引きつけられます。沖縄は今、基地問題を抱え大きく揺れていますが、ガジュマルの身もだえるように体をくねらせる表情に沖縄の今が見え隠れしているようです。そんなガジュマルに魅せられて悪戦苦闘しています。が、所詮は「ごまめの歯ぎしり」なのかもしれません。そうであっても、何とか絵になつてもらいたいとの思いで

昆虫や果物、景色や人物などさまざまなジャンルを題材に具象画から印象画まで幅広い画風の作品を手がける傍ら、多古町美術会を有志たちと立ち上げ、コミュニケーションでロビー展を定期的に開催したり、多古中央病院の通路をギャラリーに変えたりと、積極的に町美術界の活動に携わってきた佐藤寛さんに話をうかがいました。

池田氏から学んだ 美術教育

このアトリエを建てたところは、まだ現役だったかな。もともと絵は好きで、子どもの頃から興味は持っていたから、小学校の教員時代も勤めながら絵は描いていました。なかなか時間は取れませんでしたけど。

多古本町の自宅に「児童美術館」を開き、表現の裏側にある感性や個性、イメージを育てることを中心に幼児期にとつて子どもが絵に触れることは大切であるとした美術教育を一生懸命説いていた池田栄氏から非常に影響を受けました。その影響で、教員をやっている時に子どもたちに絵を教えるということに興味を持つようになったし、絵に深く関わるようになったきっかけでもありました。